

別添
二

日 月 送 受 号 課 局 議 合

欄 号 課 局 管 主

第
142
號

第
号
送 受
月 月
日 日

第
号
送 受
月 月
日 日



丙

案 起 昭 和 16 年 7 月 28 日
 判 決 9 月 28 日
 合 校
 行 施 7 月 28 日
 受 局 付 課 月 日
 月 第
 日 号
 主 任
 へ 送 る
 月 日
 起 案 用 紙 (丙)

年 月 日

課 長



專 務 官



主任

広 報 渉 外 課 長

廣 務 局 長 宛



情 報 提 供 要 請 の 件

總 司 令 部 日 午 連 絡 課 上 外 務 省 を 通 じ 九 月 十 八 日

專 主 省

附覽書として別添字通りディセントールに關する情報ヲ提供方
要請があることを至急貴店報外課宛御報告願いたい。

廣外課
學生省
廣外收142号
昭和
26. 9. 22
老厚
生
等寄

Japanese Liaison Section
APO 500

18 September 1951

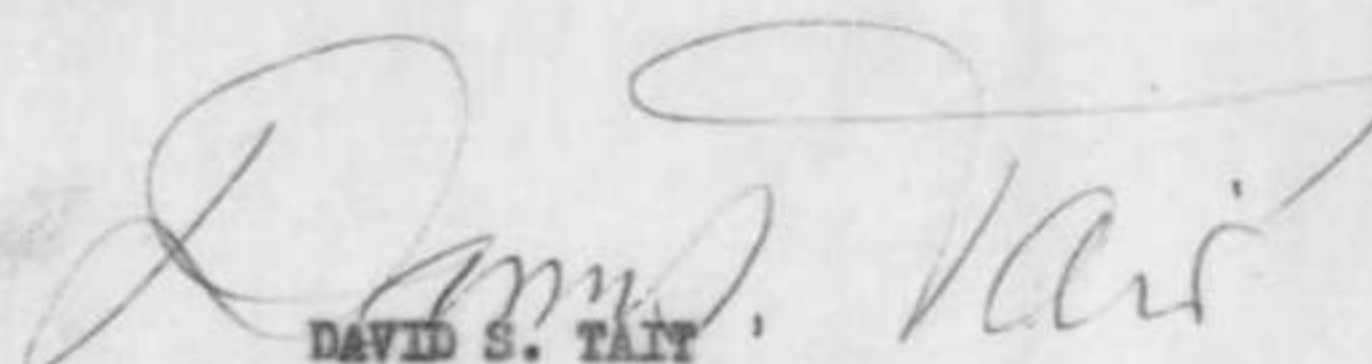
MEMORANDUM FOR : MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS
Attention: Liaison Bureau

SUBJECT : Request for Information

1. It is requested that this office be furnished with information concerning commercial source for Dysentol.

2. Dysentol is, according to data obtained from the American Instrument Company "Aminco Laboratory News", July 1951 issue, a combination of alkaloid matrine (empirical formula $C_{15}H_{24}N_2O$) and phenolsulfonate salts. Matrine is extracted from *Sophora augustifolia*.

For the Assistant Chief of Staff, G-2:



DAVID S. TAIT
Colonel GSC
Chief, Japanese Liaison Section

28. 9. 18

64/

裏
面
白
紙

総司令部参謀次長

参謀第二部長代理

日本連絡課長陸軍大佐

ディヴィッド・エズ・テイト

一九五一年九月十八日


外務省連絡局宛宛書

情報提供要請

一、ディセントール (Dycentol) 商業的入手源につき、當課宛情報を
提供されたい。

厚生省

二、ディセントールは一九五一年七月発行の米国機具会社「アミンコ」
研究所ニュースより得た資料に依れば、アルカロイド・マトリン
(alkaloid matrinis) (実験式 $C_{15}H_{22}N_2O$) とフェニール・サルフェネート
塩 (phenylsulfonate salts) の結合体である。マトリンはクララから
抽出する。

日 月 送 受 号 課 局 議 合				欄 号 課 局 管 主	
第 号	第 号	送 受	送 受		
送 受	送 受	月 月	月 月		
日 日	日 日	日 日	日 日		
日 日	日 日	日 日	日 日		
九月十八日付覚書をもつて、ディセントールに開示した情報 の提供が要法があること（別添）業務局長宛報告 方依頼し、この旨を今般別添の如き回答に接した				案 起	
				昭和 26 年 10 月 13 日 受 局 付 課 月 第 日 号 主任	
同 課長 事務官				判 決	
				月 日 合 校 行 施 月 日 起 案 用 紙 (丙)	

丙

この旨を左記より総司令部日本連絡課長宛回答
文書を外務省連絡局長に提出す依頼し、
か所伺いす。

案

年 月 日

厚生大臣官房広報渉外課長

外務省

連絡局長

陸

此報提供方要請にて

先般貴局より受領した標記の周年の総司令部日年

連絡課より九月十八日付覚書にて別添の通り

調査報告書を送付するからよりよくお取り計願いたい

厚生省

左海発第八三号

昭和二十六年十月十二日

外務省連絡局長 鎌田

厚生大臣官房広報海外課長

総司令部参謀次長

参謀第二部長代理

日本連絡課長 陸軍大佐

ディヴィッド・エス・ナイト 宛

ディセントールに因する情報について

一九五一年九月十八日覚書をもつて御安請のあるにディセン

厚生省

トールについては調査の結果終戦前朝鮮京城市所収柳

漢洋行におよそ製造されたものが判明したばかり現

況は不明である。

なお、マトリンについては近藤平三郎博士(乙卯研

究所) 東京府澁谷区金王町二七) 落合英二博士(東

京大学) 津田恭介博士(九州大学)らの研究がある。

施行の際は総司令部宛の文書を英文を附する。

ILS-MW No. 83

October 22, 1951

TO : Colonel David S. Tait
Chief, Japanese Liaison, G-2 Section, GHQ, SCAP

FROM : Chief, Information and Liaison Section,
Secretariat, Minister of Welfare

THRU : Chief, Liaison Bureau, Ministry of Foreign Affairs

SUBJECT: Information on Dysentol

Regarding information on Dysentol which was requested by your memorandum dated 18 September 1951, it was found out, as the result of our investigation, that this particular product had been manufactured by the Ryukan Co., Seoul, Korea, before the termination of the last War, but no information has been obtained as to its present status.

As to matrine, the study has been made by Dr. Heizaburo Kondo (Otsuu Laboratory - 27 Kansou-machi, Shibuya-ku, Tokyo), Dr. Eiji Ochiai (Tokyo University) and Dr. Kyosuke Tsuda (Kyushu University).

FOR THE MINISTER:

Akira Saita
Chief, Liaison & Information
Section, Secretariat,
Minister of Welfare.

裏
面
白
紙

646

裏面白紙

菅野洋一

藥收辨六九五號

昭和二十六年十月十日

厚生省薬務局



厚生大臣官房広報渉外課長 殿

ダイセントールに関する情報について

九月二十八日広渉收第一四二號をもつて御照会のあつたダイセントールについては、調査の結果終戦前朝鮮京城市所在柳漢洋行において製造されていたことが判明したがその現況は不明である。なお、マトリンについては近藤平三郎博士（乙卯研究所）落合英二博士（東京大学）津田恭介博士（九州大学）らの研究がある。

乙卯
至大
九六
至大
福同市

厚生省

広渉発第八三号

昭和二十六年十月二十四日

厚生大臣官房広報渉外課長

外務省連絡局長 殿

情報提供方要請について
先般貴局より受領した標記に関する總司令部日本連絡課よりの九月
十八日付覚書について別添の通り調査報告書を送付するからよろし
くお取り計らい願いたい。

裏面白紙

648